

伝統に生きる

—あらかわの工芸技術—

きり
桐たんす
むらい まさたか
村井正孝

きり しあ
桐たんす仕上げ
むらい やすお
村井泰雄

(令和5年度作品/30分)
DVD

プロフィール

むらい まさたか
村井 正孝

住所 荒川区町屋一丁目 / 昭和21年(1946) 荒川区町屋生まれ
令和4年度荒川区指定無形文化財保持者認定

祖父の正一氏が栃木県出身で、台東区の日里秀吉氏のもとで修業して技術を修得し、大正10年(1921)に独立して村井商店(現株式会社村井)を創業した。父の正造氏は、正一氏の甥で、栃木県から上京して養子となり、後を継いだ。昭和43年(1968)、大学卒業後に本格的に正造氏の下で修業を積み技術を修得した。平成2年(1990)に正造氏が引退し、桐たんすの仕上げを担う弟の泰雄氏(荒川区指定無形文化財保持者)と共に工房で製作に従事する。

桐材の仕入れから裁断、削り等を経て、柄(外枠)の組み立てまでを行う伝統的な桐たんすの木地作りの高度な技術を有する。仕上げは、仕上げ職人である泰雄氏に委ねる。

むらい やすお
村井 泰雄

住所 荒川区町屋一丁目 / 昭和24年(1949) 荒川区町屋生まれ
令和4年度荒川区指定無形文化財保持者認定

兄の正孝氏が昭和43年(1968)に修業を始めたのに続き、昭和46年、大学卒業後に父の正造氏の工房に入った。仕上げの技術は兄弟子・飯島政夫氏(栃木県出身)から修得した。平成2年(1990)に正造氏が引退し、木地作りを担う兄の正孝氏(荒川区指定無形文化財保持者)と共に製作に従事する。

木地作り職人が組み上げた桐たんすの柄(外枠)に砥の粉を調合した塗装、独自の防水加工、飾金具付け等の高度な仕上げを施し、桐たんすを完成させる。



総桐たんす 七重大戸

<用具・工具>

鉋 (長台、平鉋)、当て台、鋸 (胴付き)、端金、罫引、定規、金槌、丸鋸、昇降盤、電動ドリル等

<材料>

桐材 (会津産)、木釘 (ウツギ製)、ボンド

※ 接着剤はかつて統飯 (米糊) を用いていたが、虫喰いを防ぐため先代の頃からボンドを使用。

<用具・工具>

宇造り (刈萱製 <荒根・細根>、棕櫚製)、刷毛、トリマー、鉋、突通し、電動ドリル、木型 (金具取付けの際に寸法を合わせるための定規)、金槌

<材料>

組上がった木地、砥の粉 (白・淡黄)、蠟、大和液、ヤシャ液、飾金具 (引手、鍵、等)

工程 - 桐たんす -

(1) 仕入れ・アク抜き・乾燥

仕入れた桐材を雨風にさらしてアクを抜き、天日に当て乾燥させる。

(2) 木取り

桐材を選別し、木目を見極めながら各部分で使用する板を決める。丸鋸で裁断し、各部分ごとに寄せ合わせる。

(3) 板直し

板全体を焼き、桐材のねじれやゆがみを直す。板の表面を鉋で荒削りする。

(4) 板はぎ

寄せ合わせた板の木目 (板目、柃目) を揃えてはぎあわせて、各部分に必要な寸法の桐板を作る。はぎあわせる際はボンドを塗って、端金で桐板をしっかりと固定する。

(5) 板ねりつけ

引き手や引出しの表面になる部分に柃目板を貼る。

(6) ゆがみ直し

曲った柃板を罫引で細長く切り、水平な板に挟んで固定する。

(7) 板削り

引出しとなる各部材に鉋をかけて仕上げる。

(8) ミゾ突き

柃板を入れるためのミゾを入れる。

(9) ホゾ抜き

各部材に罫引で筋を入れ、金槌でたたき落としてホゾを抜く。

(10) 柄 (たんすの外枠) の組立て

- ① 底板に足を取り付ける
- ② 脇板と上板を組合せる
- ③ 柃板を入れる
- ④ 裏板を取り付ける

※ 接合部は、ボンドを塗って接着し、電動ドリルで釘穴を開け、木釘を打ち込み固定する

(11) 引出し作り

引出しを組み立てる。あらかじめ少しだけ大き目の寸法に作っておき、入れる柃の部分に当てながら、ぴったりになるまで鉋をかけて微調整する。

(12) 柄の完成

組み上がった柄を仕上げ職人に託す。

工程 - 桐たんす仕上げ -

(1) 塗装

① 下塗り

刈萱製の宇造りをかけて木目を出した後、下地用に砥の粉を水に溶かした液を塗り、乾燥させる。その後、桐たんすの下色となる大和液と砥の粉を塗り、乾燥したら再び宇造りをかける。

② 上塗り

たんすの色付けとして、ヤシャ液と大和液と砥の粉液を混合した仕上げ液を塗布する。砥の粉 (白・淡黄) を調合して注文者の要望に応じた色を作る。乾燥したら、棕櫚製の宇造りをかけて、表面に残った余分な砥の粉を払い落とす。

※ ヤシャ液は1月の大寒の時に水とヤシャの実を半日ほど煮つめて作る。

(2) 防水

保持者が独自に配合した混合液を刷毛で塗布する。

(3) 蠟引き

木目に沿って広い面から順に蠟を塗る。蠟の色 (白・茶) は仕上げたい色に近い方を用いる。蠟を定着させるために、布でこする。外から見える面は全て蠟を施す。

(4) 金具付け

引手、鍵などの金具を取り付ける。保持者が製作した木型に合わせて取り付ける位置を定め、電動ドリル、トリマー、突通しなどを用いて各々取り付ける。

(5) 引出しの調整

端材を削って作ったツケモノを柃板の奥に取付け、引出しを入れた際にぴったり収まるようにする。また引出しを削りながら出し入れの固さの調整を行う。

(6) 完成

「伝統に生きる-あらかわの工芸技術-」は、江戸から受け継がれてきた無形文化財である伝統工芸技術を保存継承し、広く普及することを目的に、荒川区指定無形文化財保持者の技術を記録した映像です。荒川区ホームページならびにYouTube (区公式チャンネル) で配信しているほか、DVDを、荒川区の図書館で貸し出しています。

問い合わせ先

■ 内容等に関すること

荒川区立荒川ふるさと文化館 3807-9234

● 荒川区ホームページ内

荒川伝統工芸技術記録映像「伝統に生きる-あらかわの工芸技術-」

<https://www.city.arakawa.tokyo.jp/a016/bunkageijutsu/dento/arakawadentoniiikiru.html>



■ DVD貸し出しに関すること

ゆいの森あらかわ 3891-4349 日暮里図書館 3803-1654
 町屋図書館 3892-9821 汐入図書サービスステーション 3807-8130
 尾久図書館 3800-5821 冠新道図書サービスステーション 3800-3321
 南千住図書館 3807-9221

● 荒川区立図書館ホームページ

<http://www.library.city.arakawa.tokyo.jp/>

